

福田美術館 開館5周年を記念し アニバーサリーロゴ、記念プログラムを発表



福田美術館（京都府右京区：館長 川畑光佐）は、2024年10月1日に開館5周年を迎えます。これを節目に、これまで当館を支えていただいたお客様を始めとするあらゆるステークホルダーへの感謝を込め、10月12日から開催する開館5周年記念特別展のほか、様々なプログラムを実施します。

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され、芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐことで、今後も「100年続く美術館」を目指して参ります。

開館5周年記念 アニバーサリーロゴについて



ゴールドで縁取った5周年の「5」の数字の中央から顔を覗かせるのは、福田美術館のコレクションの中でも人気があり「ゆるかわ」な表情が愛らしい円山応挙《竹に狗子図》の2匹の仔犬です。その周囲には福田美術館のコレクションに新たに加わった、伊藤若冲の巻物「果疏図巻」（かそずかん）に描かれた色鮮やかな果疏（果物と野菜）をランダムに配置し、5周年を華やかに彩るデザインとしています。

福田美術館のファンの方にも、5周年を機に初めて当館を知るという方にも親しみやすいアイコンとなるよう、ミュージアムショップでお買い求めいただけるグッズとしても展開していく予定です。

アニバーサリーイヤーならではのユニークな記念プログラムが続々登場！

本年度の秋より開館5周年を記念し、企画展「開館5周年記念特別展 京都の嵐山に舞い降りた奇跡！伊藤若冲の激レアな巻物が世界初公開されるってマジ？！」を開催します。期間中はアニバーサリーイヤーを盛り上げる様々なイベントやミュージアムカフェで楽しめる限定メニューなどを展開予定です。（詳細は決定次第、福田美術館公式ホームページやSNSで順次お知らせしていく予定です）

1. 伊藤若冲《果蔬図巻》を初公開！ 講演イベントも

この度世界で初めて発見され、2024年3月に福田コレクションに加わった伊藤若冲の巻物《果蔬図巻》を、「開館5周年記念特別展 京都の嵐山に舞い降りた奇跡！伊藤若冲の激レアな巻物が世界初公開されるってマジ?!」展（若冲激レア展）にて一般初公開します。公開にあたって、福田美術館学芸課長の岡田秀之による解説を交えた講演会も行います。開催日時や参加方法については後日発表する予定です。



岡田秀之



伊藤若冲《果蔬図巻》福田美術館蔵

2. 「福美のふくびき」

“福美”にちなんで、入館者で3000円以上のお買い物をしていただいた方が参加できる「ふくびき」を実施します。一等は「閉館後貸切見学 学芸員解説付」、二等は「好きな福田コレクションを生で鑑賞」（※いずれも要予約）という美術ファン垂涎のレアな体験です。その他、グッズや館内で使用できる割引券など、十等まで様々な商品をご用意いたします。（詳細は後日発表）

はずれた方にはもちろん5周年記念ステッカーをプレゼント



3. 「5周年記念ガチャ」

入館者が参加できるガチャガチャを回して、福美コレクションをデザインした缶バッジ5種が購入できます。何が出るかはカプセルを開けてのお楽しみです。

※デザインは変更になる可能性があります



4. 福美ファンが福美チャンネルに特別出演

YouTubeで好評配信中の解説動画「福美チャンネル」にて、コアな福美ファンの中から選ばれた方の、特別出演企画を実施します。ファンの目から見た福田コレクションの魅力や、学芸員とのトークなどを通して福田美術館の楽しみ方をお伝えする予定です。

5. 「パンとエスプレッソと福田美術館」との5周年記念コラボスイーツ「エスプレッソあんみつ」

抹茶アイスとバニラアイス、あんこ、白玉をあしらったあんみつに、開館5周年にちなんで五色豆を添えました。「紅葉麩」で秋も表現しています。美しい彩りのあんみつに温かいエスプレッソをかけると、和と洋の意外な組み合わせから絶妙なハーモニーが生まれます。5周年を記念して特別に開発した、アニバーサリー限定のスペシャルスイーツです。

※メニュー内容は変更になる可能性があります



6. 歴代ポスターのアーカイブ展示

パノラマギャラリー入口通路にて、これまでの展覧会のポスターを一堂に並べ展示します。ポスターのアーカイブを通して、福田美術館が開館した2019年から2024年までの歴史を振り返ります。

本件に関するお問合せ

「福田美術館」広報事務局（共同ピーアール内） 担当：田中真衣、樋口
TEL：03-6264-2045 Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

福田美術館について

美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという想いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人々が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。

